

報道機関各位



レジャー白書2011

～進むレジャーの「デジタル」化～

公益財団法人 日本生産性本部

公益財団法人日本生産性本部（理事長 松川昌義）余暇創研は、『レジャー白書2011 ～進むレジャーの「デジタル」化～』をとりまとめた。同白書は、全国15歳以上3,728人対象の余暇活動実態調査結果等をもとに、わが国における余暇の実態を需給双方の視点から総合的・時系列的にとりまとめている唯一のもので、1977年の創刊以来通算35号目になる。

特別レポート ～進むレジャーの「デジタル」化～ < 別添資料p4 >

スマートフォン、ツイッター、フェイスブックなどが急速に普及する中で、レジャーにおいてもデジタル機器の活用が不可欠となってきた。それぞれのレジャー活動単位で情報通信機器の活用がどの程度進んできているのか（「デジタル活用度」）を調べたところ、第1位「サッカーくじ（トト）」（62.8%）ほか公営競技系が上位となり、ネット参加の拡大を反映している。他にゲーム、創作、鑑賞、学習などの活動でデジタル化が進んでいる。

日本人の余暇活動の現状 ～「映画」「ミュージアム」が高順位～ < 別添資料p1 >

ウォーキングが過去3年で5割増となるなど好調なのに対し、「外食（日常的なものを除く）」など継続調査種目では伸び悩む種目も多く、レジャー・ニーズの多様化が進行しつつある。22年の余暇活動参加人口の第1位は「ドライブ」（2年連続）。好調の「映画（テレビを除く）」が4位を維持。「動物園、植物園、水族館、博物館」（ミュージアム）が初めて5位に入ったほか、「学習、調べもの」が順位・人口とも伸びている。

余暇関連産業・市場の動向 ～市場規模は2年連続70兆円割れ～ < 別添資料p2 >

平成22年の余暇市場規模は、67兆9,750億円で、2年連続70兆円割れとなった。
 【スポーツ部門】ランニング関連用品・スポーツ自転車・アウトドア用品が引き続き堅調。
 【趣味・創作部門】映画が興収記録を。テレビも家電エコポイント制度の恩恵で過去最高。
 【娯楽部門】パチンコ市場が大きく縮小。公営競技、宝くじ市場も縮小続く。
 【観光・行楽部門】東京ディズニーリゾートが過去最高売上高。乗用車市場も一時的に回復。

緊急特集 震災後日本のレジャー < 別添資料p3 >

「東日本大震災」により、わが国のレジャーもまた巨大な衝撃を受ける一方、レジャー・観光産業の役割と存在意義が深く問い直された。レジャー産業の被災状況を整理するとともに、レジャー・観光産業の社会的役割として「元気付ける」「日常を支える・取り戻す」「きずなを深める」「文化の掘り起こし、発信」「生活のリズムをつくる」「ソフトパワーの発揮」「リスクに備える」の7つを抽出、未曾有の危機を乗り越えるための方向性を展望した。

< 調査仕様 > 調査方法 : インターネット調査 調査対象 : 全国15歳～79歳男女
 有効回収数 : 3,728 調査時期 : 2011年1月

【お問合せ先】 公益財団法人日本生産性本部 余暇創研（担当）柳田

Tel : 03-3409-1125 / Fax : 03-3409-2810 / Mail : yoka@jpc-net.jp

以上